

資

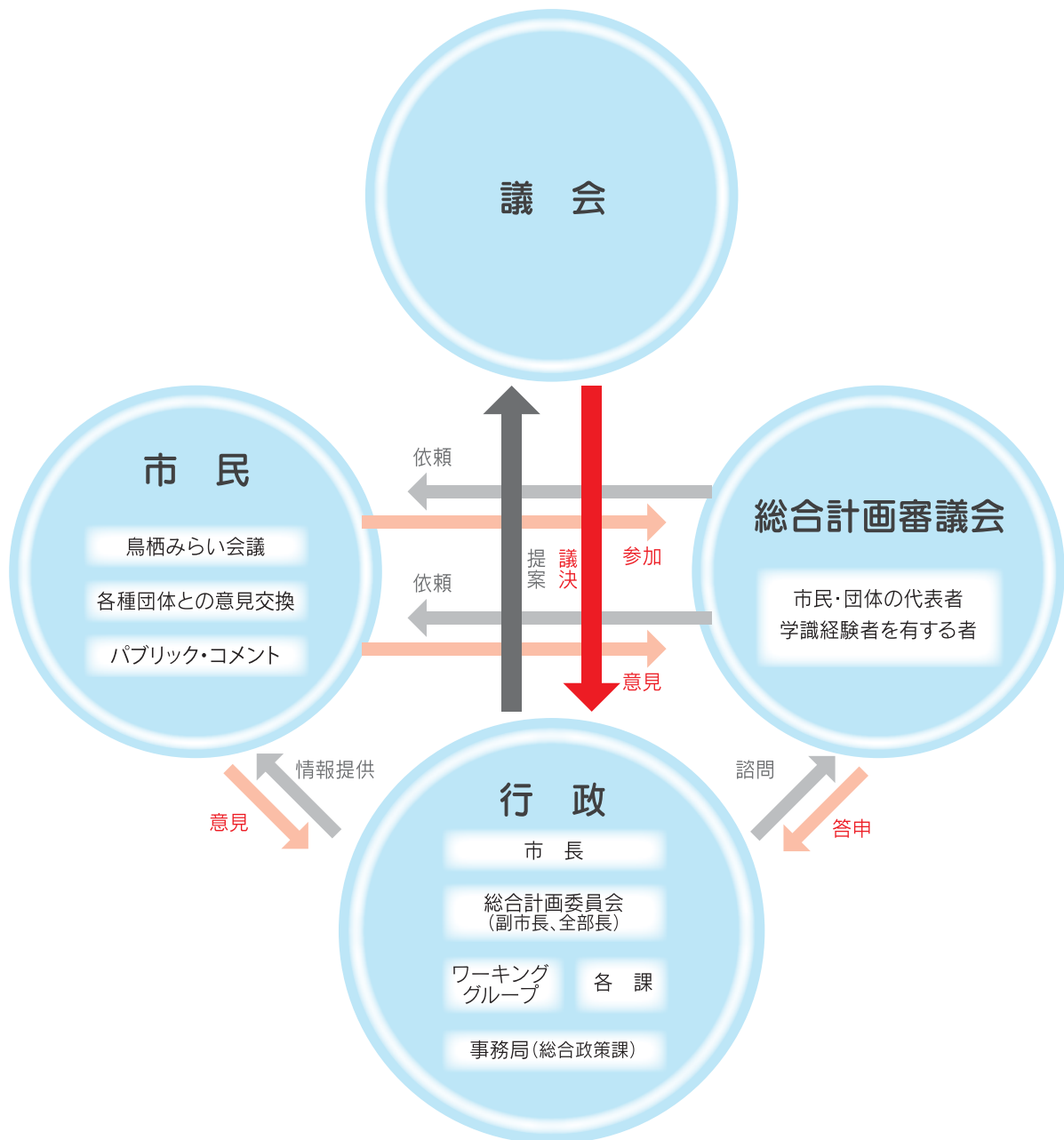
料

1 計画策定の経過	141
2 計画の策定体制	142
3 鳥栖みらい会議	143
4 総合計画審議会	151
5 総合計画基本構想特別委員会	154
6 鳥栖みらいポスターコンクール	157

年 月 日	主な策定経過
平成21年 2月17日	●第6次鳥栖市総合計画策定方針を決定
3月 1日	●鳥栖みらい会議メンバーを公募 公募期間:3月1日～3月31日
4月29日	●鳥栖みらい会議が発足
7月13日	●鳥栖みらいポスターコンクールを実施 市内小中学生を対象に夏休み期間で実施
12月24日	●鳥栖みらい会議から市長へまちづくりの提案
平成22年 8月 4日	●第1回総合計画審議会 委員委嘱、諮問、基本構想審議 など
9月 1日	●第2回総合計画審議会 現地視察、基本構想審議 など
10月 5日	●第3回総合計画審議会 基本構想、基本計画審議 など
10月16日	●第4回総合計画審議会 基本計画審議 など
10月19日	●第5回総合計画審議会 基本構想、基本計画審議 など
10月25日	●計画原案の公表・パブリック・コメントの実施 意見募集期間:10月25日～11月24日
11月27日	●第6回総合計画審議会 パブリック・コメント意見への対応、答申(案)について など
12月 1日	●第7回総合計画審議会 基本構想、基本計画答申(案)について など ●総合計画審議会からの答申
12月10日	●基本構想(案)を市議会へ提案 総合計画基本構想特別委員会に付託
平成23年 1月17日～19日	●市議会特別委員会で基本構想(案)を審議
3月 1日	●市議会において基本構想を議決

「私たちの好きなまちは、私たちでつくろう」

市民と行政と一緒に考え、つくり、実践できる計画づくり



「こんなまちになったらいいな」
市民の声を活かした、みんなで考え、つくり、実践する総合計画

～鳥栖市ではじめての取組み～

第6次鳥栖市総合計画の策定では、市民の皆さんに、まちづくりに対する想いをお伺いし、その想いを計画策定に活かすため、平成21年4月「鳥栖みらい会議」を設置しました。

素案策定の段階から市民の声を聞き、計画に活かす取組みは本市ではじめての取組みです。



～6つのグループに分かれて、生活者視点で議論。その数延べ100回以上～

自ら手を挙げ、自主的に参加した20代～80代の市民(最終登録者89名)が、生活者視点の様々なものの見かた、考えかたで、まちづくりの方向性とその具体案について議論。

会議の進め方、ルール、日程など、全てメンバーで決定するなど、約8ヶ月間という短い期間で、延べ100回以上の議論を重ねて提案内容をまとめました。

- 生活環境・自然環境グループ
- 都市基盤整備グループ
- 保健・医療・福祉グループ
- 教育・文化・スポーツグループ
- 産業振興グループ
- 自治・協働グループ

◎代 表: 赤尾隆司(産業振興グループ)

○副代表: 大竹義治(教育・文化・スポーツグループ)・櫻井堅二(生活環境・自然環境グループ)

～市長へ「まちづくりへの想い」を提案～

グループごとの議論や代表者会議、先進地視察、勉強会などを重ねながら、メンバーの想いを「住みやすいまちを目指して～まちづくりへの市民の夢と想い～」としてまとめ、同年12月24日、市長に手渡しました。



鳥栖みらい会議の概要及び提案内容は、鳥栖市公式ホームページで見ることができます。



<http://www.city.tosu.lg.jp/1289.htm>

～住みやすいまちをめざして～

新たなまちづくり計画の策定にあたり、市民の想いを届けてほしい―

市長の呼びかけに自ら手を挙げ「鳥栖みらい会議」に集まった私たち89名のメンバーは、「自分たちのまちのことだから、自分たちで考えよう」という想いで「こんなまちになったらいいな」というまちづくりへの方向性とその具体策について、生活者の視点で議論し、今回「まちづくりへの市民の夢と想い」としてまとめました。

この中に示されている「夢と想い」をまとめるにあたり、私たちは4月29日の発足以来、今日まで6つのグループに分かれての議論を含め、延100回以上の議論を重ねてきました。

議論を進めていくにあたっては、「よりよい鳥栖をつくっていくためには何が問題で、何が必要か。そのために市民は何ができるか」について、お互いの意見を尊重しながら、現地視察や、職員との意見交換等の勉強会を重ねながら熱心に議論を行いました。

約8ヶ月間という限られた期間の中で、様々な立場の市民が集まって、いろんなもの見かた、考えかたで議論し、メンバーの一つ一つの想いを大切にしながらまとめたため、決して十分な内容とは言えませんが、今後も鳥栖市が持続的に発展していくためには、どれも大切な「想い」であると考えています。

私たちは、今回の取り組みを通して、これからのまちづくりは行政だけがその実施主体となるのではなく、鳥栖で暮らす、働く、通う全ての人自らが考え、参加、行動し、共に責任を担い合う、市民と企業、行政が一体となった「市民参加によるまちづくり」を進めていかなければならないと感じました。

そのためには、これまでの活動の軌跡と成果を踏まえて、市民参加によるまちづくりの実現に向けて、市民としてまちづくりに主体的に関わっていくことが必要と考えます。

私たちは、今回提出した「まちづくりへの市民の夢と想い」を、行政が市民の想いとして真摯に受け止め、これからのまちづくりに活かし、夢と希望に満ち溢れた計画を策定されることを願っています。

今回の「鳥栖みらい会議」の取り組みは、市民参加でまちづくりを進めていくための初めての試みとして大変意義のある取り組みであったと考えます。

私たちは今回の取り組みが単なる計画策定のための取り組みにとどまらず、これから市民が自発的に自ら行動して、市民としての責任を果たしつつ、よりよい鳥栖をつくっていくための「はじめの大きな1歩」として、鳥栖市の財産となることを願っています。

平成21年12月

鳥栖みらい会議メンバー

生活環境・自然環境グループ

メンバー

代表	久保山博幸	
副代表	佐藤 勝江	
〃	古賀 和年	
	櫻井 堅二	権藤キミエ
	滝下 浩隆	平野沙緒里
	菅原 博子	福山 嗣郎
	山津美智子	合原 文夫
	碓 恵美	香山 繁美
	江崎 幸代	吉田 正敏
	永友 恵子	中山 彰夫
	速水日向子	権藤 里美



安全で活気のある駅前商店街になったらいいな

グループ協議／第2・第4金曜日 19時～

協議回数／13回以上

生活環境・自然環境グループの提案

～誇りと愛着、自覚を持って、市民の力で鳥栖の価値をあげる～

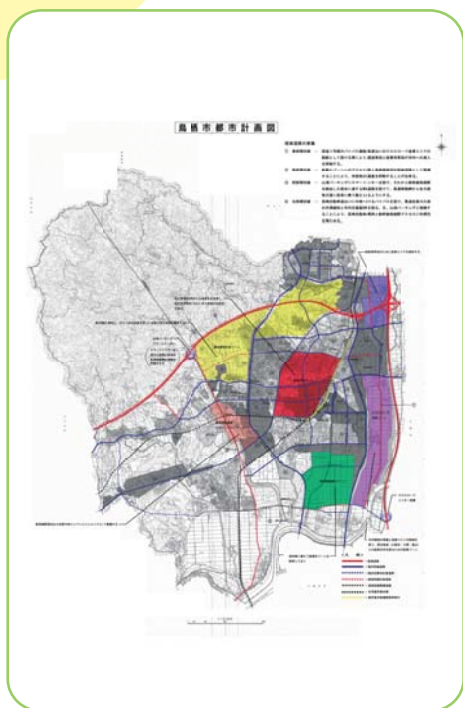
- 鳥栖のよかところさがし
- ゴミのない空気のきれいなまち「クリーン鳥栖」
- 人と自然も生き活きするまち(まちと田園の交流)
- うるおいのある街(マナーで創ろう美しい公園とトイレ) など



こんな中央公園になったらいいなー

中央公園は、市民を含めたくさんの方が訪れる、市民の憩いの場です。
緑に囲まれ、誰もが利用できるきれいなトイレがあり、子どもが水遊びできる、そんな素敵な公園をみんなでつくっていききたい。

都市基盤整備グループ



持続的発展のための土地利用
市民が住みやすく、自慢できるまちへー
地の利を活かした「交流都市」として
のまちづくり。
「笑顔あふれて人が集うまち」になっ
たらいいな。

メンバー

代 表	福山 博志	
副代表	吉竹 修一	
	小芦 明博	白水 博幸
	松尾 政博	陶山 修身
	野田 隆	浦脇 妙子
	大野 慶彰	齊藤 恭宏
	古賀 光治	齊藤美代子
	溝口 雅人	高倉 敏紀
	久光 理	

グループ協議／毎水曜日 18時30分～

協議回数／19回以上



都市基盤整備グループの提案

～地の利を活かした交流都市「笑顔あふれて人が集うまち」～

- 市民が住みやすいまちづくり
- 活力ある経済的に豊かなまちづくり
- 鳥栖に来たくなる魅力づくり など

保健・医療・福祉グループ

メンバー

代表	芹田 洋志	
副代表	塚本 孝子	
	梅木 康一	宇佐 良則
	田中 良英	吉竹 浩子
	岡本 晴視	藤戸 礼子
	鹿倉久美子	上尾 央子
	原田 賢一	瀬川 梅代
	西依 健	赤司 浄子
	梶田セツ子	久保田恵美子
	末永富士美	



グループ協議／隔水曜日 18時30分～

協議回数／16回以上

保健・医療・福祉グループの提案

～いくつになっても住み続けたいまち～

- 安心・安全に過ごせるまち
- 家族・社会のきずな再生
- 子どもを見守る大人が育つまち
- 市民の生きる力が育つまち
- のびのび育つ子どもを守るまち
- 分かりやすい情報を得る
- 行きたいところへ行きやすいまち
- 現場のことが分かる組織づくり
- 幸せを感じられるまち
- 市役所から市民へ情報発信
- 人に優しいまちづくり

教育・文化・スポーツグループ

メンバー

代表	大竹 義治	
副代表	陶山 和之	
	北川アイ子	橋間 秀樹
	竹下 繁巳	有馬 治子
	黒田隆太郎	江見 喜充
	緒方 隆司	井上 裕介
	馬場佐希子	大山加奈恵



グループ協議／隔火曜日 19時～

協議回数／13回以上

芝生化の背景

- 地球の温暖化
 - 都市部のヒートアイランド現象
 - 自然環境の減少
 - 生徒・児童の体力向上促進
 - 環境・自然の教育材料不足
- など



園庭・校庭の芝生化の検討ー

子どもたちがのびのびと、元気に動きまわれる芝のグラウンドがたくさんあったらいいな。

教育・文化・スポーツグループの提案

～次代に必要な知識や人権意識・多様性を尊重する心を育む「ふれあい」のまち～

- 明るく安心なまち
- アイデンティティあふれるまち
- 子どもたちを育むまち
- 文化・スポーツに親しむまち
- 教育刷新のまち
- 市民と情報を共有するまち
- 自然・史跡・地域に親しむまち
- 農業・食に親しむまち ほか

産業振興グループ

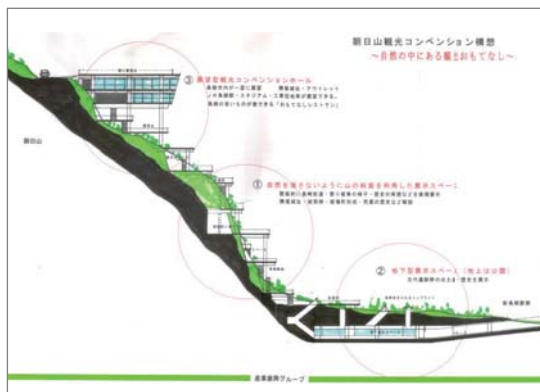
メンバー

代表	赤尾 隆司	
副代表	長田 純夫	
	大石 豪	江島 信行
	東田 清子	水田 常夫
	江田 明弘	牧崎 茂
	久保 泰三	松田 和子
	古賀喜美子	尼寺那佳子
	緒方 紳悟	

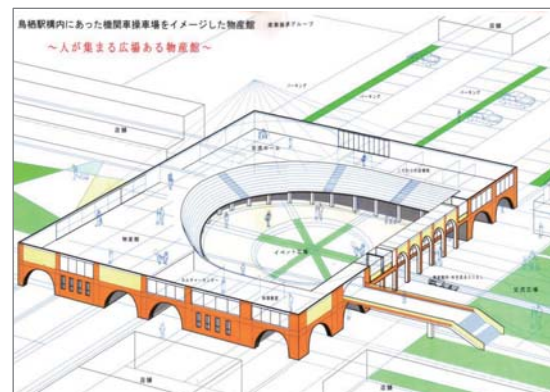


グループ協議／隔火曜日 19時～

協議回数／13回以上



朝日山観光コンベンション構想
自然、文化財等を活かした「もてなし」ができた
らいいな。



操車場をイメージした、広場のある物産館構想
地元産品が売買できる物産館ができたらいいな

産業振興グループの提案

～鳥栖市だから創造できる産業振興のまちづくり～

- 農林業の良さ・必要性を理解できるまち
- 未来を築く、新たな産業を創出するまち
- 人とつながり、もてなしの心を大切にすまち
- ビジネスチャンスを生み出し、市民の活力を活かすまち ほか

自治・協働グループ

メンバー

代表	久光 博文	
副代表	外尾 佳樹	
	弓 洋平	竹谷 由恵
	森山 洋子	橋本 尚
	菅 栄一	久保美根子
	高盛 淑恵	大渡くるみ



グループ協議／隔月曜日 19時～

協議回数／13回以上

<市民が主役のまちづくり>

『協働とは人づくりであり、コミュニティ(ネットワーク)づくりである』

<男女共同参画のまちづくり>

『性差をこえ、市民一人ひとりの能力を自由に発揮できる環境を整備することにより、市民の力を活かすまちづくり』

<国際交流のまちづくり>

『自らを大切に、国際的な多様性を受容し、異なる文化(価値観)を尊重する意識づくりをすすめ、より開かれた市民社会をつくる』

<市民目線での行政サービスのまちづくり>

『広い視点(広域行政)で、市民の目線に立った行政サービスを行う』

自治・協働グループの提案

～“おもいやり”にあふれ、ともに考え、ともに生きる強い“きずな”によるまちづくり～

- 市民が主役のまちづくり
- 男女共同参画のまちづくり
- 国際交流のまちづくり
- 市民目線での行政サービスのまちづくり

～それぞれの経験や背景、分野、地域の違いを越えた議論～

市長の諮問に応じ、本市の総合計画に関する必要な事項について、調査及び審議するため、平成22年8月鳥栖市総合計画審議会が設置されました。

審議会では、市が鳥栖みらい会議や、その他市民、団体等の意見を参考に策定した計画(案)について審議を行い、今後のまちづくりの方向性について、同年12月市長に答申を行いました。

市では、答申内容を尊重し、第6次鳥栖市総合計画(案)として平成22年12月議会へ提案しました。

総合計画審議会委員名簿

	区 分	氏 名	団体名及び役職名	備 考
市民・ 団体代表	区長代表	小石 正明	鳥栖市区長連合会長	副会長
	農業代表	高尾 弘子	JAさが東部女性部副部長	
	商工代表	石井 正美	鳥栖商工会議所専務理事	
	青年代表	高尾 千尋	鳥栖青年会議所 こころの継承委員会副委員長	
	商店街代表	江崎 幸代	鳥栖市商店街連合会	
	子育て団体	藤 知映	NPO法人 子どもと文化のネットワーク ぽっぽ・わーど代表理事	
	市民活動団体	池上 明子	NPO法人 とす市民活動ネットワーク 副代表理事	
	市民代表	赤尾 隆司	鳥栖みらい会議代表	
学識経験者		大竹 義治	鳥栖みらい会議副代表	
		牛嶋 博明	佐賀県議会議員	
		鳥丸 聡	シンクタンク・バードウイング代表	
		加留部貴行	九州大学大学院総合新領域学府 特任准教授	会 長
		松雪恵津男	福岡地所株式会社執行役員	

諮問書・答申書

鳥政第1870号
平成22年8月4日

鳥栖市総合計画審議会
会長 加留部 貴行 様

鳥栖市長 橋本 康志

第6次鳥栖市総合計画の策定について(諮問)

鳥栖市の新たなまちづくりの方向性を示す第6次鳥栖市総合計画(基本構想・基本計画)の策定にあたり、鳥栖市総合計画審議会条例第1条の規定により、貴審議会に諮問いたします。

平成22年12月1日

鳥栖市長 橋本 康志 様

鳥栖市総合計画審議会
会長 加留部 貴行

第6次鳥栖市総合計画(案)について(答申)

鳥栖市総合計画審議会条例第1条の規定により、平成22年8月4日付け鳥政第1870号をもって諮問された第6次鳥栖市総合計画(案)については、当審議会において審議の結果、別冊のとおり答申いたします。

(別冊省略)

～総合計画審議会を終えて思うこと～

総合計画－それは、まちづくりの最上位計画であり、本来そこで生活する市民の誰もが共感し実践するまちづくりの指針となるべきものです。しかし、これまではともすれば総合計画は行政が何となく策定し、市民には馴染みの薄いものであったように感じます。

昨年8月4日に始まったこの審議会では、市内の方はもちろんのこと市外の方を含めた委員13名が、それぞれの経験や背景、分野、地域の違いをある意味乗り越えて、この鳥栖市の向こう10年間のあり様について、約4ヶ月という非常に限られた時間の中で議論を重ね、同年12月1日に市長へ答申を行いました。

審議会を終えた今、改めて感じることは、時代の趨勢は常に変化しこの先何が起こるか分からないという状況の中、「計画はあくまでも計画である」ということです。

今回議論を進めていく背景に、基本理念として掲げた「まちづくりの主役は市民です」ということを大前提とし、市民目線の市民に分かりやすい、実効性のある計画づくりを目指してきたところですが、「市民が主役」というのは当たり前のことながら、実は意外と難しいことであり、市民にとっても行政にとっても「覚悟」のいることだと感じています。

今回の議論は、ありきの話しから始まった訳ではなく、それぞれの委員一人ひとりが、互いの意見を尊重しつつ時には激論をぶつけながら進めてきました。加えて、鳥栖みらい会議での熱心な御議論があったからこそ充実したものとなり、その礎とも言うべきものに大変感謝しているところです。

まさに「市民が主役」となって積み上げてきたものです。

これから、この計画をもって鳥栖市の新たなまちづくりがスタートするわけですが、行政は今後も市民の声を聴きながら共に議論を交わし、また、市民はこれを契機にまちづくりの一員としての自覚を持ち、自分たちのまちのことに関心を寄せていただき、市民と行政がたゆまぬ努力と歩みを進めていただきたいと心から願う次第です。

鳥栖市をいいまちにしていくのは、あなたです。

平成23年3月

鳥栖市総合計画審議会长
加留部 貴行

議会では、平成22年12月定例会市議会に提案された第6次鳥栖市総合計画(案)について、総合計画基本構想特別委員会を設置し、平成23年1月17日から19日の日程で審査が行われました。

総合計画基本構想特別委員会名簿

役 職	氏 名
委員 長	中 村 直 人
副委員 長	小 石 弘 和
委 員	成 富 牧 男
〃	古 賀 和 仁
〃	国 松 敏 昭
〃	藤 田 昌 隆
〃	江 副 康 成
〃	中 村 圭 一
〃	下 田 寛

＜委員長報告＞

議案甲第43号鳥栖市総合計画基本構想の改定について、特別委員会の審査の経過と結果を申し上げます。

本議案は、去る12月定例会市議会に提案され、同議会において総合計画基本構想特別委員会に付託され、閉会中の継続審査となっております。

特別委員会の審査に当たっては、平成23年1月17日から19日まで3日間の日程で執行部から各部長、各課長の出席を求め、審議をいたしました。

第5次総合計画は、平成13年に策定され、目標年次を平成22年度に設定し、本市行政執行の指針としてきたものであります。

しかし、第5次総合計画の目標年次を迎えるとともに、少子高齢化による人口減少時代の到来、男女共同参画社会の推進、市民参画による協働のまちづくりなど地方自治体を取り巻く環境が大きく変化する中、今後も厳しい財政状況が続くと予測されており、また、ますます複雑・多様化する市民の価値観やニーズに対して的確に応えていくためには、まちづくりのあり方を従来の発想とは異なった視点で検討していく必要性が生じてきたところであります。

更には、九州新幹線鹿児島ルートの特急列車の全線開通に伴う新鳥栖駅の開業により、交通の要衝としての地理的優位性が更に高まり、交通結節点として高速交通体系を生かしたにぎわいと活力あふれるまちづくりが求められていることから、今回第6次鳥栖市総合計画を策定するものであります。

本件については、地方自治法第2条第4項の規定に基づき、市議会の議決を求めるため提案されたものであります。

第6次鳥栖市総合計画は、時代の潮流や社会情勢を踏まえ、地域の特性や市民の活力を生かしながら市民の皆様と共にまちづくりを進めていくため、市民の皆様の意見を生かした、将来を展望した新たな鳥栖市を創造する指針となるものであります。

特別委員会の審査に当たり、各委員から数多くの意見があり、真剣な討論がなされたところであります。

その主なものを申し上げますと、第5次総合計画の検証及び第6次総合計画の進行管理等を行っていくのかという意見がありましたが、これに対し、これまで事務事業評価等により事業の評価を実施してきたこと、及び今後は、市民と情報を共有しながら、検証システム等の構築を図っていききたい旨の説明を受けたところであります。

また、「市民協働を推進するまち」というまちづくりの方向性が市民が目指すべき姿と合致するのか、という意見がありましたが、これに対し、市民協働は手段であり、最終的には市民の皆様とともに「住みたくなるまち 鳥栖-“鳥栖スタイル”の確立-」という将来都市像の実現を目指していききたい旨の説明を受けたところであります。

また、「人権」という文言表現が必要ではないか、という意見がありました。これに対し、「まちに暮らす人が豊かさを実感し、支えあいながら、明るく、健康で、安心して暮らせるまち」というまちづくりの基本理念の説明部分にその趣旨が含まれている旨の説明を受けたところであります。

また、広域連携についての具体的な検討状況と「州都にふさわしいまちづくり」という表現方法についての意見がありました。これに対し、現時点での広域連携の検討状況及び道州制の議論が現実味を帯びてきたときに備えて、気概を持ってまちづくりの取組みを進めて行く旨の説明を受けたところであります。

また、目標人口75,000人、就業人口推計、将来像の実現に向けたそれぞれの役割についての考え方などが意見として出されました。

また、基本構想を審査するに当たり、参考資料である基本計画における意見も数多く出され、厳しい財政運営の中でのリーディングプロジェクトの位置付け、取組みの達成目標のあり方、事業実施における推進体制、個別計画との整合性、市民協働の推進と施設整備、住環境整備事業の充実、学校教育の充実、文化振興を図るための体制整備、スポーツ施設の充実、広域連携事業の推進、産業活性化、財政の健全化、土地利用計画等に対する基本的な考え方などの質疑、意見があったところであります。

鳥栖市のまちづくりの指針となる第6次総合計画に対するこれらの意見を最終的に総括する中で、第1点目として、総合計画とマニフェストとの整合性を図ること、第2点目に、少しでも市民がわかりやすい計画とすること、などの要望があったところであります。

以上のおり多くの意見が出されましたが、これらの対応については、これからの基本計画の見直しの中で尊重してもらうように、当委員会の総意として強く要望したところであります。

本議案につきましては、鳥栖市総合計画審議会でも十分審議がなされ、答申を受けたものであり、本委員会として慎重審議の結果、採決により原案どおり可決すべきものとして決した次第であります。

以上、御報告といたします。

平成23年3月1日

総合計画基本構想特別委員会委員長
中村 直人

6 鳥栖みらいポスターコンクール

第6次鳥栖市総合計画の策定に当たり、次代を担う子どもたちに鳥栖の未来やまちづくりについて考える「きっかけ」にしてもらうために、平成22年7月「鳥栖みらいポスターコンクール」を実施しました。

～応募総数225作品～

市内の小中学生から225点の作品が寄せられ、日頃から地元でまちづくりに関わっていただいている区長さん方に作品の審査をお願いしました。

<金賞受賞作品>



〈小学生低学年の部〉
旭小1年 江口 壽昭くん



〈小学生中学年の部〉
基里小4年 飯山 哲平くん



〈小学生高学年の部〉
鳥栖小6年 樋口 貴久くん



〈中学生の部〉
田代中2年 野崎 茜さん

※受賞者の学校名、学年は、コンクール実施当時のものです

この他の作品は、鳥栖市公式ホームページで公開しています。

<http://www.city.tosu.lg.jp/1290.htm>